KOCHI でしかできない学び
Super Regional University

学びは、自由を拓く

― 高知は大きな実践の場 ―

大学とは、学びたい意欲や積極性に対して、そのチャンスを提供する場。
どうせなら舞台は大きい方がやりがいがあるし、可能性も実現性も、高いほどきっとおもしろい。
高知大学を拠点に始まる、あなたの挑戦。その先に、まだ見ぬ自由が広がっているはずです。

Super Regional Universityへようこそ!

高知大学 学長
櫻井 克年

みなさんはどんな社会人になりたいですか?
社会の求める人材は、自分で考えられる学生。
創造を主導することのできる学生。
つまり、地域を創生することで日本を再生に導くプレイヤーです。
現場を経験して、自分で考えるトレーニングを積めば、
あらゆる社会の現場で、活躍できる人材に育つはず。
高知大学は、地域協働型教育を通して
みなさんの、そして社会の期待に応えます。

高知にはあらゆる現場がある。
山頂から、海底までの豊かな自然環境はもちろんのこと、
人間の暮らす社会としての限界集落や小都会もある。
豊富で新鮮な食料と、気さくで親切な人々もいる。
未来の日本のヴィジョンを描くうえで、
土佐の地にどっしりと腰を据えた高知大学での様々な体験と実践は、
きっと、役に立ちます。
高知大学で、みなさん自身とこの社会の未来図を描き、
それを具現化するために、私たちと共に学び、成長しましょう。

そんな、Super Regional University　高知大学へ　ようこそ!

INDEX

巻頭特集
学びは、自由を拓く
― 高知は大きな実践の場 ― …… 01

学びの構造 …… 11
共通教育 …… 13

▶ 各学部の情報や特徴は?

学部紹介
人文社会科学部 …… 15
教育学部 …… 21
理工学部 …… 27
医学部 …… 33
農林海洋科学部 …… 39
地域協働学部 …… 45
土佐さきがけプログラム …… 49

学びの環境 …… 53
教員紹介 …… 57

▶ もっと学びたい時は?

大学院 …… 63
国際交流 …… 65

▶ 大学生活について詳しく知りたい

キャンパスライフ
学生生活・生活費 …… 67
サークル活動 …… 71
朝倉キャンパス …… 73
岡豊キャンパス …… 75
物部キャンパス …… 77
学びを支える様々な制度や取組 …… 79
入学料・授業料・奨学金制度 …… 80

▶ 就職に関する情報

就職活動支援 …… 82

▶ 入試に関する情報

入試データ …… 86
入試Q&A …… 89
オープンキャンパス …… 90

※学生の学年表記は、平成29年度時点です

KOCHI てしかできない学び
Super Regional University

奥深く豊かなフィールド

深海から宇宙まで、そして歴史から未来まで ――。
高知大学の学びのフィールドは、類をみない壮大なスケールと時間軸で
広がっています。

撮影協力：山下浩文氏 ❶

歴史から未来へ

宇宙から深海まで

ⓒJAXA/NHK ❷

❶地域の未来に続くゆずロード

木材運搬だけでなく通学からお嫁入りまで人々の暮らしを支えた「魚梁瀬森林鉄道」（写真④）が、現在はゆずとその食文化を運ぶ「ゆずロード」として再生。

❷世界初！ 満地球の撮影に成功

NHKと共同でJAXAの月周回衛星「かぐや」ハイビジョンカメラでの月面からの“地球の出”の撮影に成功。映像アーカイブシステムの試作には学生も貢献した。

❸海山斜面に発達するマンガンクラスト

黒潮が接岸する土佐湾は、豊かな生物多様性を持つ一方で、沖合の海底はメタンハイドレートやレアメタルなどエネルギー資源・鉱物資源を有する資源の“宝庫”かも知れない。

写真提供：四国森林管理局 ❹

❺

❻

ⓒJAMSTEC 写真提供協力：臼井研究室

❸

森林鉄道から日本一のゆずロードへ

産学官民の協働で、「日本遺産」に認定

地域のアイデンティティ再確認やブランド化を目的に、そこにある“ストーリー”を認定する文化庁の「日本遺産」。その認定に向けた活動に取り組んだのが、高知県中芸地域の住民、企業、行政と本学の教員・学生たちだ。

かつて日本三大杉美林「魚梁瀬杉（やなせ）」を運んだ森林鉄道が（写真④）、林業の衰退後、新たに地域を支える産業となった「ゆず」を運ぶ道に生まれ変わった物語を地道に聞き取り調査してまとめ、2017年、認定に至った。

産学官民のコラボが生んだこの成果は、地域の大きなエネルギーとなって次世代への一歩となっている。

月惑星探査プロジェクトに参画

月周回衛星「かぐや」から、小惑星探査機「はやぶさ２」まで

2018年6～7月、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の探査機「はやぶさ2」が、小惑星「Ryugu（リュウグウ）」に到着する。そのミッションにおいて、光学航法カメラ、分離カメラの開発や画像解析に関わっているのが、本学理工学部だ。教員の指導のもと4年生が取り組むのは、様々な波長で撮影された小惑星表面の模擬画像からの物質分布図作成（写真⑤）。得られた反射スペクトルを機械学習により分類し、小惑星からのサンプル採取を情報科学の手法でサポートすることを目指す。宇宙というフロンティアに思いを馳せ、最先端の技術と向き合う。そんな風景がここに広がっている。

深海底から、過去と未来を探る

JAMSTEC（海洋研究開発機構）や、地球深部掘削船「ちきゅう」との連携

全地球規模の過去の記録が積み重なっている堆積物。それを掘削し、柱状に抜き取った試料が「コア」だ。物部キャンパスにある高知コアセンターは、この研究における世界三大拠点の一つ。世界中から研究者が集まってきており、本学の農林海洋科学部や理工学部の学生も、この施設を活用してハイレベルな研究を行っている（写真⑥）。

また、海底に眠る鉱物やエネルギー資源は、次世代を担う資源として注目を集める新領域だ。国が進める「海のジパング計画」6事業のうち3つが本学から採択という実績の通り、高知は海底・海洋研究における最前線。先駆けの地なのである。

豊かな海で新種を発見！
日本屈指の魚類標本コレクション

まるで自然史博物館の魚類部門のような理工学部標本室。ここには登録件数12万件、個体数20万点を超える魚類標本が保管されている。学名の基準となる146種1,385標本（ホロタイプ、パラタイプ、ネオタイプ）は学術的に最重要で、特にソコダラやリュウグウノツカイなど深海魚のコレクションは世界有数を自負する。

学生たちは日々、調査船や漁港回りで魚を採集。豊かな海が研究の源だ。

KOCHI でしかできない学び
Super Regional University

研究室と現場を 行き来して学ぶ

自然、地域コミュニティ、企業や行政の現場
多彩な実践の場で、「生きた

から、国境を越えた海外のフィールドまで。
学び」が行われています。

海外の現場を体感する
教員と一緒に行く、本格的実習

実践の地は、国内だけに留まらない。人文社会科学部「国際社会実習」のスタディツアーでは、海外の様々な現場を教員と一緒に巡る。異文化の中に飛び込み、五感で自分なりの学びをつかみ取ることが目的だ。

農林海洋科学部「国際協働特別プログラム」では、本学とアジアの大学が相互に行き来し、学び合う。農学という地球規模のテーマに、国境を超えてともに挑む第一歩となっている。

小規模校に入って支援
少子化の最前線で、ともに育つ

本学教育学部では、学生が多彩な教育の現場に入り、実践を行うプログラムが重層的に組まれている。その一つが「支援実習」だ。

これは一年間を通じて定期的に中山間地域の小・中学校を訪れ、行事支援や授業支援を行うもの。一人ひとりの子どもと深く関わりながら成長を見守ることができるとともに、それを通して学生たちも学びを深めるという相乗効果を生んでいる。

企業と大学、連携の学び
新聞記者として学生が活躍

社会で活躍する人を輩出するために近年、力を入れているのは、企業と大学とが協働で行う実践的な教育だ。

その一つ、人文社会科学部の地域ジャーナリズム分野の授業では、現役新聞記者によるリレー講義や新聞社でのインターンシップなど、独自の学びが展開される。実習はハードだが、自分の足で地域を回って書いた記事が載る紙面からは、社会の厳しさを体験した学生たちの成長がうかがえる。

KOCHI でしかできない学び
Super Regional University

次世代の人材を輩出

高知でしかできない体験を通じて、豊かな感性と高い能力を身につけた学生たちが、世界に羽ばたいています。

2年生で株式会社を起こし、地域の魅力を発信！

カフェ satobitoの挑戦

地域協働学部3年 ｜ 三重県立津西高校出身 ｜ 大道 健太

カフェの目玉は14種類のアイス。店内には、実習で関わった様々な地域の加工品や情報誌も置かれる。

僕たちが実習で入っている大豊町は、県内一過疎化の進む町。そこで地域再生をかけて始まったブルーベリー栽培が停滞している状況を見て、販路開拓を手助けしたいと強く思ったのが起業の動機です。

大学近くにあるカフェsatobitoでは週5日（月・木定休日）、大豊町産のブルーベリーや柚子を使ったアイスクリーム、地場の食材を活かしたランチなどを提供しています。レシピ開発、接客、売上管理、やるのはすべて学生です。生産者と消費者をつなぐ架け橋として、地域に貢献していきたいですね。

「バリアフリー」をキーワードにした町づくり

学生力で、商店街を元気に！

人文学部（現 人文社会科学部）4年 ｜ 兵庫県 私立神戸星城高校出身 ｜ 岩瀬 誠司

活動を通して感じたのは、人と人とがつながることの大切さ。それが町づくりの起点になると学んだ。

きっかけは、2年生の授業で商店街に入ったこと。現状を知り、もっと継続的に関わろうと学生団体を設立。誰もが利用しやすい商店街を目指し活動を始めました。

手応えを感じたのは、バリアフリーマップの作製です。おかげで安心して外出できたと車椅子の方から声をいただき、うれしかったですね。マップは、その後、高知市、NPOとの共同事業に進展しました。

4月から、僕は建設コンサルタント企業で働きます。ここで学んだ町づくりの心を、仕事にも繋げていきたいと思います。

現場体験から見えてきた、理想の将来像

チューター活動で原点を見つめ直す

教育学部3年 ｜ 高知県立追手前高校出身 ｜ 田畑 咲恵

キャンパスで地域の小学生と一緒に遊び、学ぶプログラムなど、学内でも様々な体験ができる。

初めて地域の小学校にチューター（学生講師）として入った時、教育現場の現実にとても驚きました。まず席に座っていない子の方が目立ち、授業をするための環境づくりから支援をスタートしました。

大学の授業や実習先の附属小学校では、授業の指導法、その正確性を学びます。チューターの現場では、学級運営や授業の魅力づくりについて教わりました。「その子のできる最大限をいかに引き出すかが大事」── 現場で出会った先生の言葉から、目指す教員像も見えてきました。

人材育成を支える様々な取り組み

▶希望創発センター

未来を考える教育で育つ次世代、未来型の教育でつなぐ将来

現在の高知県は、他県に先駆けて少子高齢化や人口減少が進み、環境保全や人材、資源確保だけではなく地域コミュニティの維持も難しくなってきています。

だからこそ高知大学では、未来を担う若者の「事実を見る目」を養い、自ら何が課題なのかを考え、周りを巻き込んで課題解決に取り組むことで、新しい"当たり前"を創り出すことに挑戦できる次世代の人材を育成することを目的として希望創発センターを設立しました。

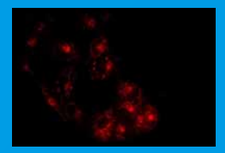
本センターでは、様々な専門知識を持つ県内外の企業、官公庁の方々と本学教員及び学生が既成概念を破るような思考を巡らせます。

高知県で成功例を創ることは日本の未来を豊かにすることに繋がるのです。20年後が希望を抱ける明るい未来になるように、ただ待つのではなく自分たちで創ることに挑戦しませんか。

生体深部のミトコンドリアをモニタリング

世界初の蛍光色素で、特許出願

理学部（現 理工学部）4年 ｜ 高知県 私立土佐女子高校出身 ｜ 関 仁望



開発した蛍光色素と、それによって光るミトコンドリア。医学の発展に大きく寄与する可能性を持つ。

がんや糖尿病の治療の鍵として研究が進むミトコンドリア。私はミトコンドリア観察用蛍光色素を開発してきました。この色素は、通常時には細胞内ミトコンドリアに吸着しますが、ミトコンドリアに元気がない時には細胞核に移動します。この挙動を蛍光顕微鏡で観察することで、ミトコンドリア活性のモニタリングが可能になるため、今後、生命科学における新たな研究ツールになると期待できます。この研究は、2つの特許出願※と、サイエンス・インカレでの受賞に繋がりました。

※一つは高知大学仁子陽輔助教との連名、もう一つはそれに加えて山口大学との連名

クラウドファンディングから、フェア出展まで

土佐あかうし振興プロジェクト

農学部（現 農林海洋科学部）4年 ｜ 熊本県立熊本北高校出身 ｜ 久保 里加
4年 ｜ 広島県立府中高校出身 ｜ 薮本 美月

ブランド商標登録やグッズデザインも学生が中心に。ビジネスフェアでは大きな手応えを得た。

土佐あかうしは、脂肪が少なくうまみ成分が多い褐色の和牛。私たちの研究室ではその増頭と肉質向上に取り組んでおり、このほど柚子を飼料に混ぜて育てた新ブランド牛「柚子だっこ」が誕生しました。この「柚子だっこ」を全国に広め、県の畜産振興に貢献したい――そんな思いで学生が中心となって様々な活動に挑戦。高知大学初となったクラウドファンディングや、アグリビジネスフェアへの出展など、社会と繋がりながら大きな体験ができ、達成感と自信を得ることができました。

日本腎臓学会総会で、921演題の中から選出

快挙！ 3年生で学会受賞

医学部3年 ｜ 高知県 私立土佐高校出身 ｜ 間崎 護

会員数が一万人を超える大きな学会で、医学部3年生の受賞は異例の快挙。まだまだ挑戦は続く。

今回、私が優秀演題賞を受賞した研究は、急性腎障害の予後に、免疫反応に関連する細胞間相互作用を媒介するタンパク質の一つ、インターロイキン-36（IL-36）が関連していることを検証したものです。

急性腎障害は、入院患者の3分の1の人に後遺症が残り、3分の1の人が亡くなる重篤な疾患。患者さんの尿中のIL-36を病気の指標として活用し、将来的には創薬まで繋げて予後改善に貢献するのが研究の大きな目標です。今後も臨床と研究、両方を担える医師を目指し努力していきたいです。

人材育成を支える
様々な取り組み

▶地域連携推進センター

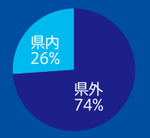
地域発展のために 「敬地愛人」～地域を敬い、人を愛する～

地域連携推進センターは「敬地愛人」の理念を掲げ、地域発展のために人材育成、イノベーション創出、科学の発展、技術開発および産業活性化への貢献を目指しています。大学の研究力を活かして地域産業をサポートするとともに、高知県の大部分を占める中山間地域などのコミュニティの維持、発展のため、大学の知や学生の若い力を活かした様々な企画を地域の皆様と協働で実施しています。地域の「産」「官」「民」等との連携を創出し、高知大学が地域課題解決の中核的拠点となるための役割を果たします。

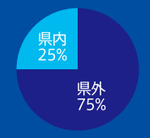
数字が裏付ける
高知大学の実力

97.53%
就職率

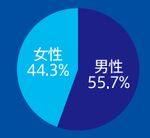
76.74%
公務員内定率



就職先県内外比率
（平成29年度卒業生）



学生県内外比率
（平成30年度入学者）



男女比率
（平成30年度学部在校生）

留学生数（24ヶ国）
140名

海外協定校
うち大学間協定62校（20ヶ国）
部署間協定32校（18ヶ国）
94校

海外派遣留学生数
110名

人文社会科学部
4年生のゼミ平均人数
4.8人

農林海洋科学部
キャンパス内農地面積
東京ドーム4個分

地域協働学部
1～3年生の実習時間
600時間

74.2%
教育学部
教員就職率

35%
理工学部
開講専門科目の実験
実習科目割合

144%
医学部
サークル加入率